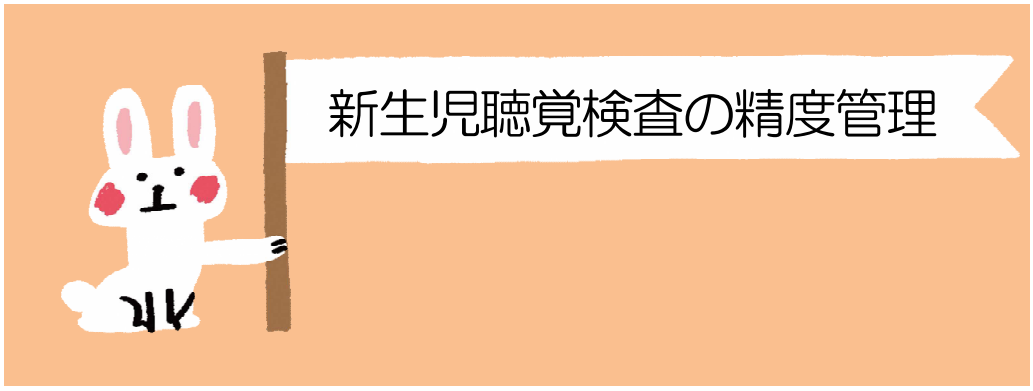
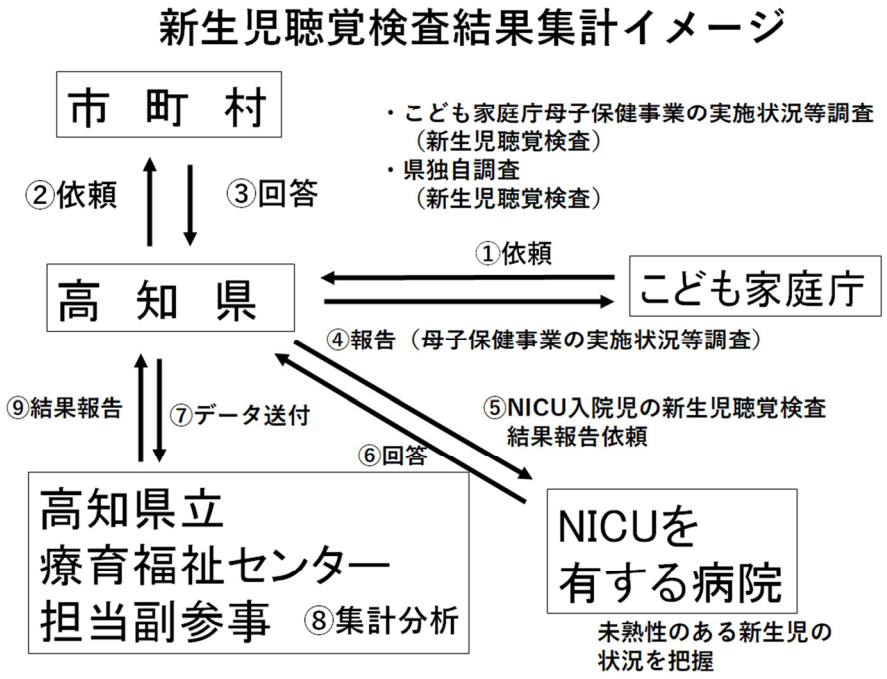

新生児聴覚検査の精度管理

《新生児聴覚検査の精度管理》

・高知県における新生児聴覚検査の精度管理は、県から市町村への調査及び高知県国保連合会への委託により、データを高知県が収集・集約し、療育福祉センターで集計・解析して、新生児聴覚検査連絡協議会で検討、報告を年度ごとに行います。



・集計対象：前年４月１日から当年３月 31 日までに出生した新生児
　このうち、県内に住民票があり、県内の分娩医療機関で出生した新生児が精度管理の解析対象。なお県外に住所を持ち、県内の分娩医療機関で出生した新生児および県内に住所を持つが県外の分娩医療機関で出生した新生児は、参考として集計。
　※精度管理や有病率等を評価するには、統一された新生児聴覚検査体制が実施されている県内出生に限って分析することが必要であるため、県内出生については詳しく、県外出生や出生時に県内に住所地がない新生児については参考として集計
・市町村からの報告内容：出生した新生児の新生児聴覚検査実施状況および実施結果について、こども家庭庁の母子保健事業の実施状況等調査（新生児聴覚検査）に、県独自調査項目を補完。

【項目の例】
・出生数、県内出生数
・県内出生数のうち未受検数、自動 ABR 以外の方法で受検した数、スクリーニング受　診数（初回検査受診数）、初回検査リファー数、確認検査受診数、確認検査リファー数、精密検査の対象児数、精密検査受診数、精密検査結果把握数、精密検査　正常、難聴（両側難聴、一側難聴）、結果未確定

・NICU からの報告内容：県内の新生児集中治療管理室（Neonatal Intensive Care Unit: NICU）を有する３施設に、同時期に出生した NICU 入院児について実施結果の報告の依頼。

・評価指標：新生児聴覚検査の実施評価指標として指標を算出

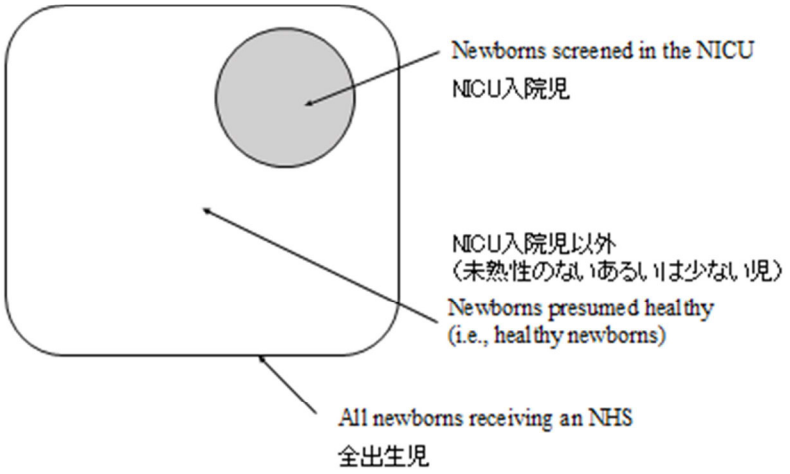
【指標の例】

・スクリーニング受診率、初回検査陽性割合、確認検査陽性割合、スクリーニング陽性割合、精密検査受診率、精密検査結果把握割合、精密検査　正常割合、難聴割合（両側難聴割合、一側難聴割合)、結果未確定割合、難聴有病率（千対)、両側難聴有病率（千対）

・NICU 入院児およびNICU 入院児以外の比較

未熟性の高い新生児は難聴のリスクが高く、スクリーニングにおいて精密検査を要する結果となる割合が未熟性がないあるいは少ない新生児より上昇します。このため、新生児聴覚検査の評価においては、未熟性の高い新生児と未熟性がないあるいは少ない新生児を区分して集計することが求められます。

出生児とNICU 入院児との関係は以下の図のようになります。算術計算された「NICU 入院児以外」については、未熟性のないあるいは少ない児の状況をあらわすと推定され、これを仮にHN（healthy newborns）と標記しています。



・NICU 入院児およびNICU 入院児以外の指標を算出

【項目の例】

・スクリーニング受診数（初回検査受診数)、初回検査リファー数、確認検査受診数、確認検査リファー数

【指標の例】

・確認検査リファー数のうちNICU の割合、初回検査陽性割合、確認検査陽性割合、スクリーニング陽性割合、スクリーニング陽性割合NICU　/　NICU 以外のオッズ比

・未受検に関する指標

【初回検査の未受検理由の例】

「児が聴覚検査の機器のない医療機関で生まれた」、「医療機関から適切な説明がなかった」、「保護者が必要性を感じず同意しなかった」、「障害・NICU 入院加療中等で検査ができる状態ではなかった」等

・要精密検査の子どもの保護者への支援等に関する指標
  ・要精密検査の子どもの保護者への支援実績数（実数）
    【項目の例】電話、自宅訪問、その他（来所相談等）、行っていない（行っていない、保護者以外への照会、転出等）
  ・精密検査受診確認有無（実数）
    【項目の例】保護者へ照会、精密検査・二次検査機関へ照会、行っていない、転出等
  ・精密検査の受診時期
  ・精密検査の受診医療機関名
  ・精密検査受診後の保護者のフォロー実績数（実数）
    【項目の例】電話、自宅訪問、その他（来所相談等）、行っていない（行っていない、転出等）
  ・療育へのつなぎ
    【項目の例】難聴の診断がついた子どものうち、療育へつながった数、その月齢
  ・診断がついていない子どもの月齢

※2017 年から 2022 年の統計は、《高知県での新生児聴覚スクリーニングの成績》13～15 ページに示しています。